まつやま子どもの想い作文コンクール

優秀賞受賞作品

いつもがんばっているぱぱ

松山市立桑原小学校　１年

黒川憶十（くろかわおくと）

ぼくのぱぱは、ケイサツカンです。きどうたいのときは、山やうみ、川でいなくなった人をたすけていました。山にのぼったり、みずにもぐったり、かべをのぼったりまいにちたくさんれんしゅうしていました。そして、いまはパトカーにのってわるい人をたいほします。こうばんで、こまっている人がくるとたすけます。ぱぱは、ケンジュウのせんしゅです。あてるのがとくいです。やすみの日もまいにちケンジュウのれんしゅうにいっています。ぼくのぱぱは、やさしくてつよいです。

ぱぱはいつも「つかれた。ねむい。」といいます。ぱぱは、こうばんにとまります。ぼくがねているときも、ねないでしごとをしています。だから、いえではいつもねています。

ぱぱがおきているときは、たたかいごっこをしてくれます。ならいごとのすいぐんだいことからてでは、いっしょにならいにいっています。いえで、たいこのたたきかたをおしえてくれます。からてのかたもおしえてくれます。ぱぱは、ぼくのせんせいになります。

やすみのときは、かぞく六人ででかけます。ぼくは、でかけるのがすきです。でかけているとぱぱのケータイがなります。よびだしです。あそんでいても、ごはんをたべていてもおしまいにします。よびだしがはいると、なきそうになります。でも、だれかをたすけにいっていることは、すごいとおもいます。

ぱぱはがんばってつかれたからバイクじこにあいました。あたまのしゅじゅつを二かいして、くすりもたくさんのみました。ぱぱがすごくいたそうだったからしんぱいでした。

ぱぱはケイサツカンのしごとをがんばって、カッコイイです。たいことからてのせんせいになっておしえてくれて、すごいです。つかれていてもあそんでくれて、やさしいです。

ぱぱは、ぼくのヒーローです。がんばりすぎないでね、ぱぱ。いつも、ありがとう。